



「ここにきて良かった」と思える  
安心の病院を目指したい！

〈ヴェルデスペシャル〉リハビリマインド vol.10

◎福祉・介護・健康フェア in 新潟  
◎市民公開講座第14回認知症セミナー

医療と地域をつなぐセミナー・イベント

〈ヴェルデトピック〉vol.10

「ペイシエントハラスメント」  
今考えたい

より良い診療は、  
お互いの信頼から。

〈対談みどりトーク〉  
院長 成瀬聡  
梶法律事務所 当院顧問弁護士 梶英一郎氏

## SMiDデイサービスなな色 重症心身障害児のための居場所

みどり病院のスタッフが  
ちよっとお邪魔します。  
みどり病院 会議

smidとは医療分野でSever Motor and Intellectual Disabilitiesの頭文字を取っており、意味としては『重症心身障害児』です。  
「なな色」は、0歳から18歳までの「重症心身障害児」を対象とした、児童発達支援・放課後等デイサービスです。看護師と当事者の親が「家族の選択肢を増やしたい」という思いから、2025年4月に新潟市に開所しました。

**施設の主な特徴**  
◎手厚い専門ケア:1日定員5名の少人数制で、感染症リスクを抑えつつ、人工呼吸器などの高度な医療的ケアにも対応しています。  
◎多職種によるチーム支援:看護師、療法士(PT/OT/ST)、保育士、児童発達支援管理責任者が連携し、一人ひとりに最適な療育とケアを提供します。  
◎家族への寄り添い:24時間ケアを担うご家族が安心して休息できるよう、信頼関係を大切に日々の支援を行っています。

**想いとこれから**  
開所から1年を迎え、スタッフと子どもたちは深い絆で結ばれています。子どもたちの無限の可能性を引き出しながら、地域の貴重な居場所として、これからも笑顔あふれる支援を続けていきます。

**お問い合わせ**  
NPO法人 Bridge.  
SMiD デイサービス なな色  
〒950-8550  
新潟市中央区網川原1-15-11 穂高D  
tel.025-278-3793 fax.025-278-3794  
http://www.smidnanairo.com



**みどり病院グループ**  
医療法人新成医会  
・認知症疾患医療センター  
・介護医療院 みどりケアセンター  
・介護老人保健施設 緑樹苑  
・みどり訪問看護リハビリステーション  
・新潟市地域包括支援センター 宮浦東新潟  
・浜浦みどり荘 (有料老人ホーム・デイサービス・訪問介護)

**医療法人 新成医会 みどり病院**  
総合リハビリテーションセンター  
〒950-0983 新潟市中央区神道寺2丁目5番1号 tel.025-244-0080  
https://www.midori-gr.jp

みどり病院 新潟 検索



みどり病院 広報誌 Verde  
(発行人) 総合リハビリテーションセンター・みどり病院 病院長 成瀬聡  
(発行) 2026年 春

院長  
**成瀬 聡**  
satoshi naruse

みどり  
対談  
トーク

梶法律事務所 当院顧問弁護士  
**梶 英一郎氏**  
eiichirou kaji



成瀬 聡 院長  
1986年新潟大学医学部卒業。医学博士。日本神経学会神経内科専門医・指導医、日本認知症学会専門医・指導医。院長としての業務に携わりながら、週3回、脳神経内科・もの忘れ外来を担当。

患者さんに寄り添う医療だからこそ、  
悩みが生まれるのです。

**成瀬** 梶先生には、みどり病院でトラブルや相談があるたびにご助言をいただいていた。今回は「ペイシエントハラスメント」をテーマに、医療現場としての向き合い方を伺いたいと思います。まず、この言葉が注目されるようになった背景から教えてください。

**梶** どの医療機関でも、患者さんやご家族からの過度な要求に悩まされています。医療従事者は「患者さんに寄り添う」ことを大切にし、可能な限り要望に応えようと働いています。一方で要望を受け入れ

ないと、患者が「理解してもらえない」と受け止めて、要求がエスカレートしてしまいうケースもあります。こうした構造が、「ペイシエントハラスメント」が注目される背景にあると感じています。

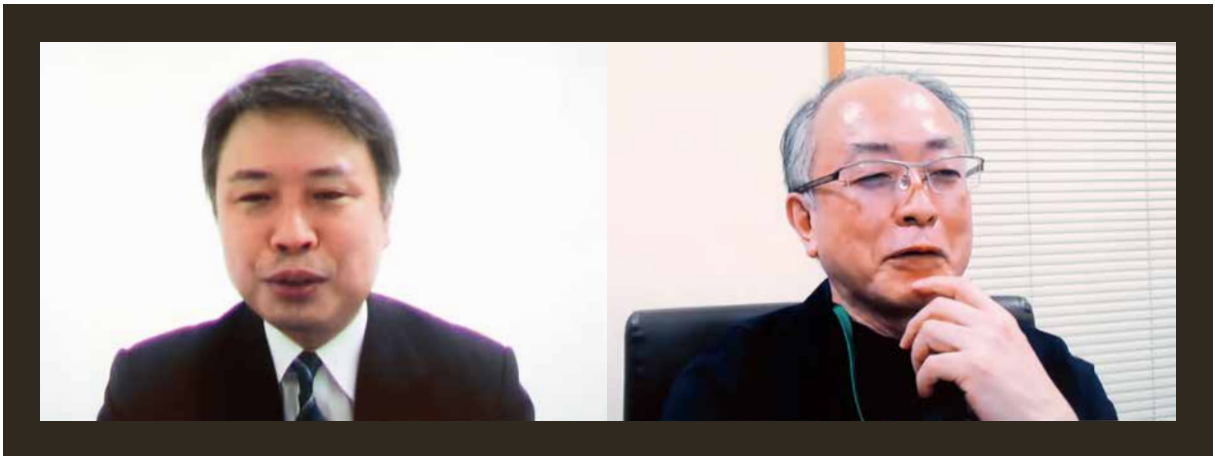
**成瀬** どこまで応じるべきか、その線引きが難しいですね。

**梶** 法律上、明確な線引きがあるわけではありません。組織としての考え方が重要で、一般的には「訴えの内容が妥当か」「訴えの方法や要求の程度が相当か」の二軸で判断します。

**成瀬** 例えば、小さなミスのために、過度な要求が続く場合はどうでしょうか。

**梶** その場合、ハラスメントに該当する可能性がありますが。ただし、職員一人でハラスメントに該当するかを判断せず、組織として対応方針を定め、複数人で対応する体制が求められます。

**成瀬** 長時間のクレーム



# より良い診療は、 お互いの信頼から。 今考えたい 「ペイシエントハラスメント」

けるべきでしょうか。  
**梶** 患者さんの期待

と実際の診療との間のズレを小さくすることが重要です。医療の不確実性が伝わらないと不満につながります。医療者が「よくあることです」と示すと、患者さんには冷たく感じられます。こうした意識のズレを減らすには、事前の説明に加え、医療対話推進者が関わることも有効です。

**成瀬** 患者さんと医療者の認識が異なる場面は少なくありません。そうしたときこそ、関係性を丁寧につくることが信頼関係につながると感じています。医療対話推進者という第三者の存在は、安心感がありますし、組織としての取り組みも欠かせませんね。

**梶** はい。対応方針の明確化、相談体制の整備、迅速かつ適切な事後対応、抑止策。この四点を組織として整えることで、職員が孤立せ



梶 英一郎 先生  
横浜市生まれ、富山県出身。東京大学法学部卒業後、法科大学院を経て弁護士登録。棚瀬法律事務所勤務を経て独立し、梶法律事務所を開設。医療関係の事件を中心にとした実務に携わっている。

組織として対応すること、現場の職員を守るにつながります。

ず、安心して働ける環境につながります。

**成瀬** 病院として、ハラスメントへの対応体制を整え、マニュアル化しておくことが重要だと感じました。  
**梶** 今後、厚生労働省からカスタマーハラスメントに関する指針が示される予定ですが、先行事例として新潟県病院局が作成したペイシエントハラスメント対応指針があります。考え方を整理するにあたり、参考になると思います。

**成瀬** 今日のお話を伺い、多くの気づきがありました。ペイシエントハラスメントに対しては、常に冷静に向き合うことが大切だと感じています。そのためにも、相談ルートを確認にしたハラスメントマニュアルを整備し、全職員で共有していくことが重要だと分かりました。今後は、その点に取り組みんでいきます。梶先生、本日はありがとうございました。  
**梶** こちらこそ、ありがとうございました。ありがとうございました。今後、みどり病院の皆さんが安心して働ける環境づくりをお手伝いできればと思います。

verde column

〈ヴェルデ：コラム〉

脳神経内科医師  
徳武 孝允

気持ちをほぐしてくれる“観る将”

医療の現場でもAIの活用が話題になることが増えましたが、私が日常でAIを身近に感じるのは、意外にも「将棋中継」を眺めているときです。

皆さまは、日々の気分転換にどのような時間を過ごされているでしょうか。私は最近「観る将」という趣味を楽しんでいます。「観る将」とは、「将棋はあまり指さないけれど、対局を見るのが好きな人」という意味です。スポーツ中継を眺めるような感覚で、テレビやインターネットで将棋の対局を見ています。

藤井聡太六冠の活躍もあり、将棋がニュースで取り上げられる機会が増えました。一手ごとに形勢が変化する緊張感は見応えがあり、音もなく駒が進むだけに、気がつけば画面に引き込まれています。

「将棋は難しそう」という印象をお持ちの方も多いと思いますが、最近の中継にはAIによる「形勢判断」と呼ばれる機能が表示されます。「先手60%」といった数字で、どちらが優勢かを示してくれるものです。専門的な知識がなくても、“いまどちらに流れがあるのか”が直感的に分かり、観戦しやすくなりました。数字が少し動くだけでも「今の一手で形勢が変わっ

たのだらうか」と想像がふくらみ、盤面を見る目も変わってきます。

さらに、解説者が一手一手に意味を添えてくれます。「この手は守りを固めながら攻めの準備もしています」といった言葉を聞いているうちに、理解できる瞬間が少しずつ増え、「なるほど」とうなずけるようになり、観る楽しさが深まっていきます。

将棋というと専門的な世界を想像しがちですが、観るだけならどなたでも気軽に楽しめる身近な娯楽です。もし日々の中で気軽な息抜きを探しておられる方がいらっしゃれば、「何となく眺めてみる」くらいの気持ちで将棋中継をのぞいてみるのも良いかもしれません。AIがそと局面を照らしてくれる将棋の世界を通して、観る将として過ごす時間が、忙しい医療現場の中でふっと気持ちをほぐしてくれるひとときになっています。



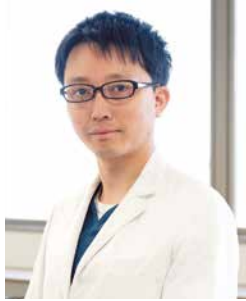
糖尿病、内分泌代謝内科

橋本 浩平

旭川医科大学医学部 2013年卒

専門分野  
糖尿病 内分泌代謝内科

資格・認定医  
日本内科学会認定医  
日本糖尿病学会糖尿病専門医



施設長

飯沼 泰史

新潟大学医学部 1984年卒

専門分野  
小児外科 一般消化器外科 救急医療

資格・認定医  
日本外科学会指導医・専門医  
日本小児外科学会指導医・専門医  
日本医師会認定産業医



◎ 緑樹苑・みどりケアセンター  
常勤医師の紹介

◎非常勤医師の紹介

循環器内科 田邊 靖貴

専門分野 循環器内科、内科  
資格・認定医 日本循環器学会循環器専門医、日本内科学会内科認定医

リハビリテーション科 和泉 由貴

専門分野 リハビリテーション科  
資格・認定医 日本リハビリテーション医学会、リハビリテーション科専門医

リハビリテーション科 宮入 暁子

専門分野 リハビリテーション科  
資格・認定医 日本リハビリテーション医学会、リハビリテーション科専門医、日本リハビリテーション医学会、リハビリテーション科指導医

脳神経内科 石黒 敬信

専門分野 認知症、脳神経内科  
資格・認定医 日本内科学会、総合内科専門医、日本神経学会、神経内科専門医、日本認知症学会専門医、日本認知症学会指導医

脳神経内科 山田 友美

専門分野 脳神経内科  
資格・認定医 日本内科学会総合内科専門医、日本神経学会神経内科専門医

内科、認知症

小川 裕介

鳥取大学医学部 2014年卒

専門分野  
内科 認知症

資格・認定医  
日本内科学会認定医  
日本老年病学会老年科専門医  
日本老年病学会老年科指導医  
日本認知症学会専門医  
日本認知症学会指導医



呼吸器内科、内科

小原 竜軌

新潟大学医学部 1990年卒

専門分野  
呼吸器内科 内科

資格・認定医  
日本内科学会総合内科専門医



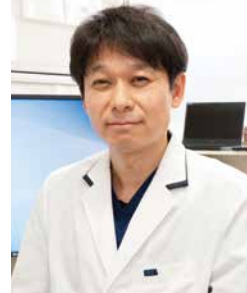
脳神経内科

徳武 孝允

新潟大学医学部 2003年卒

専門分野  
脳神経内科

資格・認定医  
日本神経内科学会神経内科専門医  
日本神経内科学会神経内科指導医  
日本内科学会総合内科専門医  
日本認知症学会専門医  
日本認知症学会指導医  
臨床研修指導医



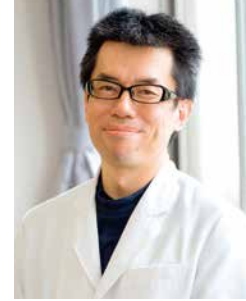
副院長・脳神経内科

矢島 隆二

新潟大学医学部 2004年卒

専門分野  
認知症 脳神経内科

資格・認定医  
日本神経学会神経内科専門医  
日本神経学会神経内科指導医  
日本内科学会総合内科専門医  
日本認知症学会専門医  
日本認知症学会指導医  
新潟市認知症サポート医  
日本リハビリテーション医学会認定臨床医



診療部長・内科、消化器内科

佐藤 剛司

山形大学医学部 2001年卒

専門分野  
内科 消化器内科

資格・認定医  
日本内科学会総合内科専門医  
日本消化器病学会消化器病専門医  
日本消化器内視鏡学会  
消化器内視鏡専門医



内科

笠見 卓哉

滋賀医科大学医学部 2012年卒

専門分野  
血液内科

資格・認定医  
血液専門医



院長・脳神経内科

成瀬 聡

新潟大学医学部 1986年卒

専門分野  
認知症 脳神経内科

資格・認定医  
日本神経学会神経内科専門医  
日本神経学会神経内科指導医  
日本認知症学会専門医  
日本認知症学会指導医  
日本内科学会認定医  
日本認知症予防医学会評議員  
新潟市認知症サポート医



名誉院長・リハビリテーション科

佐藤 豊

新潟大学医学部 1974年卒

専門分野  
リハビリテーション科

資格・認定医  
日本リハビリテーション医学会  
リハビリテーション科専門医  
日本リハビリテーション医学会  
リハビリテーション科指導医



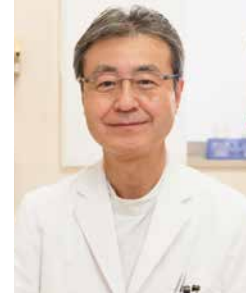
副院長・内科、呼吸器内科

齋藤 泰晴

佐賀医科大学医学部 1988年卒

専門分野  
呼吸器病学 一般内科

資格・認定医  
日本内科学会総合内科専門医  
日本呼吸器学会専門医  
日本静脈経腸学会認定医



◎常勤医師の紹介

# 医療と地域をつなぐセミナーやイベントに参加しています。

## ◎福祉・介護・健康フェア in 新潟

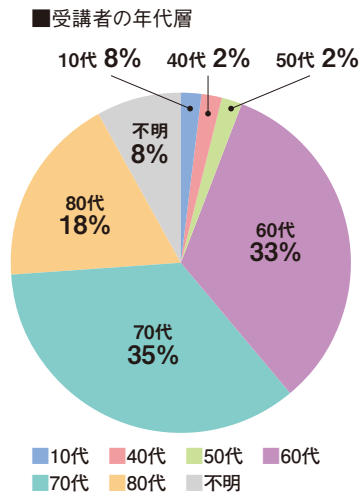
### 体験しながら学ぶフレイル

正しく知って健康寿命を延ばそう



11月8日(土)に今年も『福祉介護健康フェア in 新潟』で講演をしてきました。天気心配をしておりましたが、当日は雨も降らず、来場者も多く、大変賑わっていました。

今回が3回目の講演となりましたが、今年は「体験しながら学ぶフレイル」正しく知って健康寿命を延ばそう」と題して、斎藤副院長、管理栄養士、言語聴覚士、理学療法士の4名で講演をいたしました。受講者は過去最高の55名で、年齢層は60〜70歳台の方が多く、次いで80歳台の方が多く(別グラフ)、フレイルや健康についての関心の高さがうかがえました。今年の内容は、フレイルの概要から始まり、対策としての運動、栄養、口腔機能、社会参加、脳トレを行いました。ご来場の皆様は非常に熱心に聞いて下さり、脳トレでは大きな笑い声も聞かれました。また、多くの質問を下さり、アンケートでは「楽しく、フレイルを学びました。」とのご感想をいただきました。地域の皆様の笑顔で健康な生活に貢献できれば幸いです。



## ◎市民公開講座 第14回認知症セミナー

### 認知症を考えるきっかけに

最新情報や経験を共有



「市民公開講座 第14回認知症セミナー」を11月15日(土)に新潟市民プラザにおいて開催いたしました。当日は小春日和のあたたかな気温となり、来場者の方も上着を脱いでお見えになる方もいらっしゃいました。

今回は、実母の介護経験をとおして感じたことを一般市民の方から発表していただいたり、認知症の最新治療について、また認知症の方への周囲の関わり方のポイントや意思決定のあり方についてなど、様々な視点からの講義をお聞きいただきました。そして、第2部のパネルディスカッションでは、それぞれのお立場から認知症の方に対して日頃から大切にされていることなどをご発表いただきました。

当日参加された方のアンケートでは「認知症と診断され日常に不安を感じたら、いろいろな人に相談をして一緒に考えてもらうことが良いと思った」など、セミナーの趣旨を十分にご理解いただいたご感想もお寄せいただきました。ご参加いただいた皆様ありがとうございます。

#### 講座に関するアンケートの一例

- ◎ 日常生活に大変役に立ちます。楽しく聞いて理解できた。
- ◎ 健康寿命という言葉を理解できました。サルコペニアのテストは良かった。
- ◎ フレイル、要介護にならないように改めてしたいと思います。
- ◎ 食事や運動がいかに大切わかりました。
- ◎ この年齢のうちに、こういったお話をきけてよかったです。
- ◎ できない時こそ脳が活性化していると思えば、どんどんチャレンジできます。心が軽くなりました。
- ◎ みどり病院の方の優しさが伝わってきました。





# “ここに来て良かった”と思える 安心の病院を目指したい!

私たちの病院は、「この地に根差し、地域住民・患者・家族・職員すべての人が安心できる病院を目指す」ことを心がけています。みなさまにとって“ここに来て良かった”と思える安心の病院を目指したいとの思いを、日々大切にしています。パーキンソン病の治療とリハビリテーションを通じて、多職種チームが連携して患者さんの生活を支えます。

verde special 当院のリハビリテーション

リハビリマインド vol.10

## パーキンソン病への 包括的アプローチ

パーキンソン病は振戦や歩行障害などの運動症状だけでなく、便秘、起立性低血圧、認知機能低下、幻覚、睡眠障害など多様な症状を伴います。この病院では初期診断から終末期まで一貫した対応が可能です。薬物調整(薬価も考慮)や症状の鑑別診断を迅速に行います。早期からの嚥下機能評価とリハビリテーションが特に有用で、在宅復帰を目指したサポートが充実しています。

腔ケア、介護サービス申請まで総合的に支えていきます。レスパイト入院や、デバイス療法へも対応可能です。



ど、柔軟に対応します。症状への対応の仕方や、各種介護看護処置に対する家族指導や、リハビリテーションセラピストによる自宅環境の確認、在宅生活に即した退院支援を総合的に「その人の生活と“その先”を考えます。

## 在宅復帰と地域連携

神経難病リハビリテーション入院では、自主トレーニング指導や、関係各所への情報提供を行い、地域での顔の見える連携を重視しています。元の生活維持を第一に、困りごとひとつひとつに対応。どんな些細な事でも、お気軽にご相談ください。患者さんやご家族が、自分らしい生活や、安心できる毎日を送れるよう、どんな小さなことでも真摯に耳を傾け、お力になりたいと、スタッフ一同心がけています。みどり病院が、パーキンソン病患者さんの日常を支えます。

## 多職種チームの強み

脳神経内科・認知症・リハビリテーションの専門医が複数在籍し、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士とも連携し、抗パーキンソン病薬の最適な調整とリハビリテーションを提供します。褥瘡対策チーム、栄養サポートチーム、認知症サポートチーム、歯科衛生士、医療ソーシャルワーカーも介入し、肺炎や骨折などの合併症治療、口



## 依頼内容と実績

よくあるご依頼は、認知機能や精神症状の評価や治療、運動・非運動症状への薬物調整、リハビリテーションを目的とした数週間程度の入院、レスパイトを目的とした短期入院、みなさまにご納得いただけるように配慮した看取り療養です。状態が落ち着いた後はかかりつけ医へ引き継いだり、当科での外来併診を行ったりな



|  |
|--|
| 施設概要   |
| 名称   |
| 山の下クリニック   |
| 所在地  |
| 〒950-0066 新潟県新潟市東区長者町5-5<br>tel.025-273-3535                   |
| 診療科目   |
| 内科・胃腸科・リウマチ・膠原病内科  |
| 診療時間   |
| 月、火、木／9:00～12:00、15:00～17:30<br>水、金、土／9:00～12:00<br>休診日:日曜日、祝日 |



連携医療機関の紹介



新潟市東区

# 山の下クリニック

**Q** 診療所について教えてください。

明治27年に今のイタリア軒の向かいに4代前の阿部玄四郎が阿部眼科病院として開院し、その後第2次世界大戦の影響により祖父である阿部尚道が山の下に阿部内科小児科医院として開業してから東区での診療を行っています。父である阿部尚平が阿部胃腸科内科医院として診療しているところを平成22年に継承し、令和3年に現在の地に私が山の下クリニックとして移転開業しています。令和7年4月より同じ昭和大学卒のリウマチ・膠原病内科の専門医である古屋医師とともに診療を行っております。外来診療はもとより、訪問診療にも力を入れており、訪問エリアは東区と北区の松浜、中央区の沼垂、入船を対象としています。訪問診療ご希望の際には一度クリニックにお問い合わせいただきたいと思っております。

**Q** 診療方針について教えてください。

地域の皆様のかかりつけ医として、病気の予防から健康管理、介護・福祉サービスの利用相談まで幅広く相談に応じられるような「地域のなんでも相談所」としての医療機関を目指しています。当院で対応できないことに関しては適切な医療機関や窓口をご紹介します。また医療のみでは地域を支えきれないため、訪問看護、訪問介護、ケアマネジャーなど地域の関係者と密接な連携が必要と考えており、顔の見える関係性を作る「山の下地域包括ケアネットワーク」通称「山の下ねっと」を年2回開催し毎回70名程度の方が参加していただいております。さらに情報共有ツールとして新潟市医師会が推奨している「SWANネット」を利用することにより迅速な対応ができるよう努めています。

**Q** 最近の医療で注目していることはありますか？

AIの利用について。

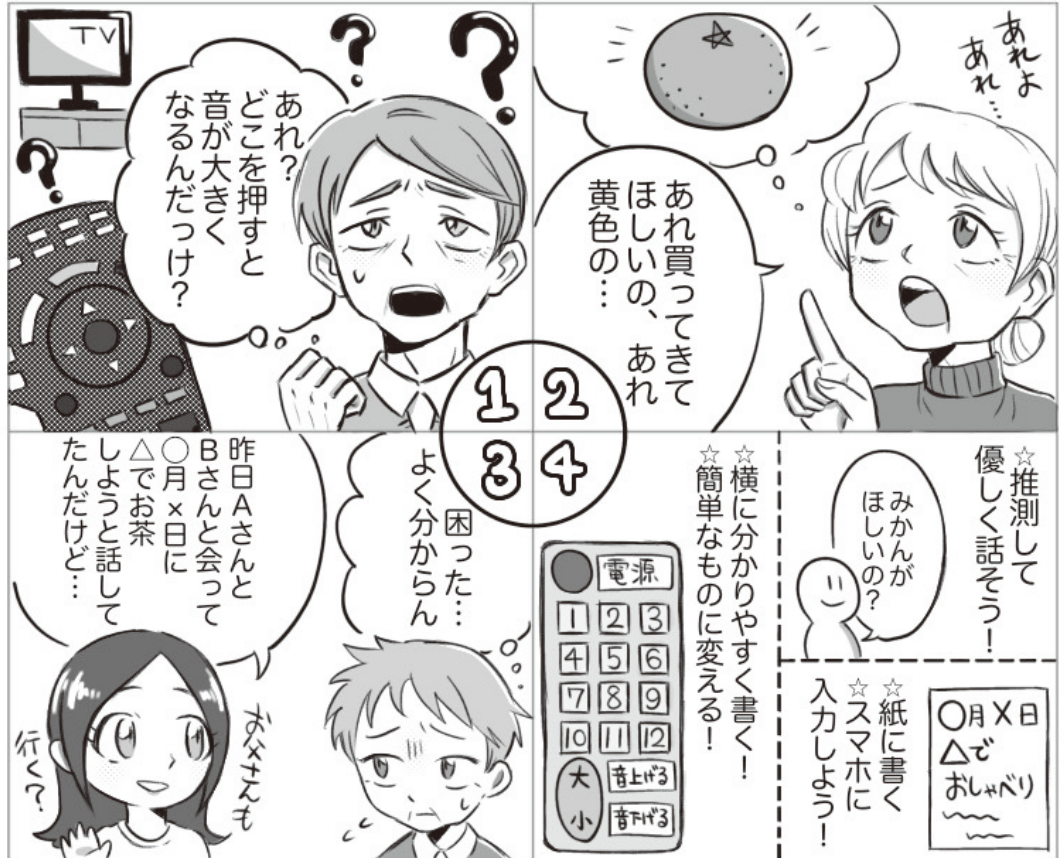
**Q** 医療以外に、最近気になっていることはありますか？

災害対策の仕方や少子高齢化の動向について。

新潟市東区

認知症の方がどんな時に不安になるかを想像し、具体的な接し方について考えました。

おおぞら高校 新潟キャンパス 中山さん



### 本人との接し方のコツ

言葉の症状が出ている方と接する時は、話しかける私たちがまずは相手の言いたいことを汲みとる姿勢が大切です。具体的なポイントとして、ゆとりをもって接する、目線に合わせて1対1で話す、一つの文章を短く区切る、分かりやすい言葉で伝える、などがあります。

さらにその方の元の病気によっては、分かりやすい図や絵で伝える、重要なことは文字で書きながら伝えると良い場合があります。いずれにしても、分かりやすく話そうとすることで、相手のプライドを傷つけることにならないように気をつけることも大切になってきます。

お問い合わせ ▶ みどり病院 認知症疾患医療センター ☎ 025-244-5566 ✉ dcmidori@midori-gr.jp

# マンガで分かる! 認知症のこと

テーマ

## 『言葉が出にくい、言葉の意味が理解できない』

頭の中でイメージはできていても単語が浮かんでこないために「あれ」「それ」などが増えて会話が滞る、単語は浮かぶけれども文章として組み立てられないために、自分の言いたいことが言えない、また相手の話も聞こえてはいても内容が頭に入らないなどが起こる場合があります。また、私たちは日常生活上の自分の経験もとおして言葉の意味を理解し、覚え、その場に応じて使いこなしています。それを自然と行うことで社会生活がスムーズに送れているのですが、認知症になって自分の記憶の中から適切にその物の名前と意味を思い出すことが難しくなると、例えば買物に行っても自分の欲しいものが探せないとか、使い慣れた電化製品でもどのボタンを押せばよいかわからなくなるなど、日常の中で困ることができます。